

2020年度 第6回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 選考報告

選考委員長 櫻井 一弥

1. 応募講演

10 講演

2. 選考経過

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、みちのくの風 2020 が中止となったことに伴い、建築デザイン発表会を中止した。

改正された内規(日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞選考方法内規)に基づき、建築デザイン発表会が開催されない場合は、発表梗概を表彰の対象とする旨を確認した上で、建築デザイン教育部の委員全員によって選考委員会を組織することとした。

2-1 事前選考

2020年6月15日(月)～6月21日(日)

応募講演全10題の中から「第6回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞」として相応しいと思われる2題を、「第1位」「第2位」として順位を付けて投票してもらうこととした。投票に当たっては、オンライン上のデータストレージから梗概を閲覧するものとし、専用の投票フォームを作成して投票した。8名の委員より投票があり、以下のように7題が票を獲得する結果となった(タイトルは省略)。

E-02	第1位：1票	第2位：3票
E-03	第1位：3票	
E-04	第1位：1票	
E-06		第2位：1票
E-07		第2位：1票
E-09	第1位：3票	
E-10		第2位：2票

2-2 選考会

2020年6月23日(火) 14:30～15:30 Zoomによるオンライン会議

選考会に出席可能な委員5名(下記参照)で、建築デザイン発表賞にふさわしいものを選出することとした。

内規に従い、計10題の梗概より2つを選出することを確認した。

2-1の事前選考による結果を踏まえ、まずは票を獲得したものについての意見交換を行った。その後協議の上、票を獲得したもののうち、第1位としての票が入った4題(E-02、E-03、E-04、E-09)より2題を選出することとした。

委員相互で4題に関する意見交換を行った。様々なタイプのプロジェクトがある中で、どのように賞を選出するか、議論が難しかったが、最終的にはそれぞれのプロジェクトを多角的な視点から評価して決定することとした。

結果、次節に示す講演2題に第6回建築デザイン発表賞を授与することとした。

選考委員長： 櫻井 一弥（建築デザイン教育部会長、東北学院大学）
選考委員： 小地沢将之（建築デザイン教育部会幹事、宮城大学）
増田 豊文（東北文化学園大学）
馬渡 龍（八戸工業高等専門学校）
大沼 正寛（東北工業大学）

3. 選考結果

第6回日本建築学会東北支部建築デザイン発表賞 2点

「道の駅 あんだい」(E-03)

浅井 郁明（東北学院大学大学院）

「公共施設等総合管理計画に基づく施設の複合化に際してのプレデザイン」 (E-09)

小地沢将之（宮城大学）

星 歩美（NPO 法人コミュニティ）

齊藤 彰（工作室 齊藤彰一級建築士事務所）

4. 講評

「道の駅 あんだい」

災害時に地域の拠点となることを想定した道の駅の計画案である。宮城県七ヶ浜町を敷地として選定し、通常時、災害発生時、災害復興時にシームレスな利用が可能となるよう設定している。道の駅の災害時利用は、広域的な拠点として検討されてきた経緯があるが、避難生活や仮設期の生活を想定した提案は珍しく、実用性が高いと考えられる。敷地の状況を詳しく示す資料がなく、立地を確認しにくかった点などの課題はあるが、様々な活用方法が想定された、可変性のある空間の提案が高く評価され、今回の賞に選出された。

「公共施設等総合管理計画に基づく施設の複合化に際してのプレデザイン」

仙台市の将監地区に現存する複数の公共施設を、複合施設として整備する過程において実施された、地域住民によるワークショップの報告である。基本設計に至るまでの要件の整理と、将来的な管理運営を地域住民が担うことを前提として意見集約を行う、プレデザインの先駆的な事例として位置付けられる。堅実なワークショップを積み重ねることで、プロセス・デザインが緻密に計画されている。またその結果が具体的な施設設計や管理運営方針に反映されており、高く評価できる。今後の展開にも期待できるとの意見が多く、今回の賞に選出された。

以上